



有限会社 内田農場（熊本県阿蘇市）

～大区画を利用した生産と契約販売～

◆ 地域の概要

阿蘇地域は標高が200～900mと高低差が大きく、年平均気温は11～14℃と冷涼で年間降水量は県内平坦地の1.5倍の3,000mmと多い。そのため、湿田が多く農業生産は減農薬・減化学肥料栽培による水稻（阿蘇コシヒカリ）や飼料用稻（WCS）の栽培が経営耕地面積の大半を占めています。また、広大な牧野（放牧、採草）を活用した畜産も盛んです。



収穫イベント

◆ 団体の概要

有限会社内田農場は、創業者である先代社長内田孝昭氏が高校生の時に豚一頭から始めた養豚経営からスタートし、農地集約と大区画化により大型機械を最大限活用することで、作業の効率化を図り、現在では経営面積55haを実現しています。

これらの活動が高く評価され、令和2年度「全国優良経営体表彰」販売革新部門において、農林水産大臣賞を受賞しました。



内田代表と従業員の皆さん

◆ 具体的な取り組み

○農地集約と大区画化

国や土地改良区の基盤整備事業に頼らず、30a区画の圃場を地権者の承諾を得て畦畔を取り払い、自社所有のボトムプラウで表土天地返しし、レーザーレベラーを用いて60a～1ha区画の大型圃場に自主施工。これにより施工後の水管理が容易にできることや草刈り作業の労力削減等、大幅なコスト削減を実現しています。



レーザーレベラー

○スマート農業への取組

経営する55haもの圃場を2名～3名による少人数の作業員で管理することが可能になったのは、

上記の圃場区画の拡大による大型機械の利用とICT農機やデバイスの利用によるものが大きく、GPSを搭載した田植機やトラクターの自動操舵機能やドローンでの防除作業の導入など、先進的な作業管理が実践されています。

○減農薬栽培と農耕畜連携

標高500mという高冷地の冷涼な気候風土であり、平坦地に比べて病害虫の発生が極めて少ないため、減農薬栽培が可能。また、堆肥等を介し、畜産農家との連携にも取り組んでいます。

○受注生産方式

取引先のニーズに応じた品種を栽培し、安定した収益につなげるため、作付けした品種全ての販売先が決まった契約での取引を行っています。



牛井チェーン店専用水田

◆ 今後の抱負

厳冬や多雨という厳しい気候のため、水稻以外不適とされているものの、今後は、大区画化した農地を活用して大豆や麦などの作付けも可能とし、地域と連携したブロックローテーションを取り入れることとしています。

また、阿蘇の気候風土に適した「米で飯が食える土地利用型農業」を確立し、これからを担う農業の後継者たちに引き継いでいくことが期待されています。



自社米「うち田」

◆ お問合せ先

名称：有限会社 内田農場

住所：熊本県阿蘇市

電話：0967-32-2262

代表：内田智也 氏

(参考) 九州農業の取組事例集「九州で先頭を走り続けている農業者等の活動」

URL：<http://www.maff.go.jp/kyusyu/portal/toprunner.html>

お問合せ先

九州農政局 企画調整室

担当者：田子森、西田

代表：096-211-9111 (内線4112)

ダイヤルイン：096-300-6011